

Case 28-2006: A 59-Year-Old Man with Masses in Both Kidneys

(New England Journal of Medicine 2006; 355: 1161-7)

【患者】 59歳男性

【主訴】 特になし

【現病歴】

ルーティーンの身体診察（受診契機不明）で右上腹部の膨隆を指摘され、腹部エコーを実施された。その際、右腎上極に $\phi 4.4$ cm、左腎上極に $\phi 3.1$ cmの腫瘍が認められた。また、副腎レベルの下大静脈の内部に 2×5 cmの腫瘍があり、Doppler法で見るとその周囲には residual flowが観察された。肝胆膵、ならびに脾臓には異常を認めなかった。

その2週間後の腹部CTにおいては、両腎に 3×4 cmほどの腫瘍が認められた。右の腫瘍は大静脈にかかっており、血栓の存在も疑われた。胸部単純X線写真では異常を認めなかった。

【既往歴】

腎臓結石の既往あり。高血圧、糖尿病、肥満で治療中。小児時にポリオに罹患し左脚短縮を外科的に矯正されている。最近の血尿、尿路症状、側腹部痛、体重減少、食欲低下、発熱、易疲労感などは否定された。

【家族歴】 両親はそれぞれ脳卒中と心筋梗塞で他界、きょうだい1人、高血圧と糖尿病を罹患している。

【生活歴】 既婚、印刷業、機会飲酒、非喫煙者

【薬歴・アレルギー歴】 既知のアレルギーなし

エナラプリル（ACEI）、グリブライド（スルフォニル尿素系糖尿病薬）、ベラパミル（Ca拮抗薬）、フロセミド（ループ利尿薬）、アロプリノール（尿酸産生阻害薬）

【来院時現症】 エコー検査から1ヶ月後の泌尿器科外来にて。独歩での受診。

〈全身状態〉 血圧 $210/80$ mm Hg、その他のバイタルサインは正常。

〈腹部〉 肥満体。触知可能な腫瘍なし。

その他、身体所見に特記事項なし。

【検査所見】 上記の泌尿器科外来にて。

〈血算〉 異常なし。

〈生化学〉 BUN 15 mg/dl, Cre 0.8 mg/dl、電解質・肝機能の結果は正常。

〈尿定性〉 異常なし

〈尿細胞診〉 尿細管細胞、円柱、異型移行上皮細胞（clusterを含む）

【画像所見】

〈腹部エコー〉 右腎上極に $\phi 4.4$ cm、左腎上極に $\phi 3.1$ cmの腫瘍、副腎レベルの下大静脈の内部に 2×5 cmの腫瘍があり、
内腔はほとんど閉塞。血管内腫瘍の周囲には residual flow。肝胆膵ならびに脾臓に異常所見なし。

〈腹部CT〉 エコーより2週間後。右腎中極に $\phi 4$ cmほどの固形腫瘍、右腎静脈に bulging。左腎中極に $\phi 3-3.5$ cmの腫瘍。

以下、上記の泌尿器科外来から3日後の腎臓内科外来にて。

〈腎血管造影〉 腎機能は対称的。

〈胸部CT〉 肺門リンパ節の石灰化を認める。

〈bone scan〉 Th11の椎体後部にて変形性関節症と考えると矛盾しない局所的な活動亢進像を認める。

〈胸椎X線写真〉 bone scanの結果に同じ。

〈下大静脈造影〉 腎臓内科外来からさらに1週間後に実施。腎静脈から横隔膜レベルにかけて、大きな血栓が形成されている。右腎静脈にカテーテル進入できず。

ここである診断的手技が施行された。

Figure 1. Imaging Studies at Initial Presentation 6 Months before Admission.

CT of the abdomen reveals a solid mass, approximately 4 cm in diameter, in the right kidney, extending into the collecting system (Panel A, long arrow) and into the vena cava (short arrow). An inferior venacavogram (Panel B) reveals a thrombus (arrows) extending from the right renal vein into the vena cava to the level of the diaphragm. CT of the left kidney (Panel C) reveals a tumor, approximately 3.0 to 3.5 cm in diameter, in the upper pole of the left kidney (arrow).

